



きぬ うら

衣浦東部消防局

碧南市・刈谷市・安城市・知立市・高浜市



警防

FIRE

火災など複雑多様化する災害に対応するため、日々、消防技術や教養に研鑽し、災害発生時は確固たる戦術をもって立ち向かい、被害を最小限にとどめ、市民の生命・身体・財産を守ります。

通信指令

119CALL

119番通報を受信し、災害に応じて消防隊、救急隊、救助隊に出動指令を出しています。
また、ファクシミリやメールによる119番通報ができる設備を設置し、聴覚に障がいのある方をはじめとした災害弱者の緊急時にも備えています。

EMS

救急

傷病者の症状に応じた応急処置を行いながら迅速に医療機関へ搬送しています。救急救命士法の制定や高規格救急自動車の配備により、救急隊の処置範囲は飛躍的に拡大し続けています。

INVESTIGATION

指揮調査

現場では指揮者の補助として、救護の必要な人の把握や情報収集、隊員の安全管理、指揮者の決定事項の伝達やそれを実行するための補佐を行っています。また、火災時は指揮者の補助と並行して火災の原因調査も行います。

救助

RESCUE

火災、交通事故、水難事故のほか、地震などの大規模災害から市民の生命を救うため、高度な知識、技術と特殊な装備を備えています。
人命最優先で活動し、あらゆる救助現場で安全迅速に現場活動ができる体制を整えています。

予防

PREVENTION

火災の発生を未然に防ぐために事業所等へ立入検査を行い、必要に応じて指導を行っています。
また、建物が建築される計画段階から防火に関し審査する建築同意事務やガソリン、灯油等の貯蔵取扱いについて規制する危険物規制事務を行っています。

保有車両 (平成30年4月現在)

消防ポンプ自動車

8台



消防ポンプ自動車は、消火栓や河川・池などから汲み上げた水を強力なポンプで圧力を加えて放水する車両です。

化学消防ポンプ自動車

4台



化学消防ポンプ自動車は、主として水では消火することのできない油脂火災や化学火災に対応するために、水と薬液(泡原液)を混合させる混合装置を有し、泡ノズルで発泡させることで窒息消火を行う車両です。1,300リットル程度の水槽と500リットル程度の薬液槽を装備しています。もちろん、一般の消防ポンプ自動車と同じく一般火災時には水を放水することもできます。放水銃を搭載しているので高圧放水が可能です。

屈折はしご付消防ポンプ自動車

1台



屈折はしご付消防ポンプ自動車は、高層建物火災で逃げ遅れた人を救出したり、消火をしたりすることに加えて、石油コンビナート火災に対応できる高所放水塔としての活動も行えます。記号のシグマ(Σ)型に伸長することができるため、狭い場所でも優れた機動力を発揮します。はしご自動車に比べて、低層階での複雑な障害物に接触することなく、火元に近づいて消火・救助活動を迅速かつ効果的に行えます。

水槽付消防ポンプ自動車

17台



水槽付消防ポンプ自動車は、1,500リットル程度の水を積んだ消防ポンプ自動車で、タンク車、速消車(即消)などとも呼ばれています。速消車と言う名称からも分かるように、水槽付消防ポンプ車は消防水利から水をとるまで(他の車両から送水を受けるまで)の間に、タンクの水を使って消火ができる車両です。

はしご自動車

4台



はしご自動車は、油圧で動作するはしごを装備し、ビルなどの高層建物火災で逃げ遅れた人を救出したり、消火をしたりする車両です。最近では、はしご先端にバスケットを装着し、はしごを下方向にも伸長することができるため、地上から直接バスケットに乗ることができますし、水難救助などにも活躍します。

小型動力ポンプ付水槽車

3台



小型動力ポンプ付水槽車は大型水槽車とも呼ばれ、5,000~10,000リットル程度のタンクローリー型水槽を装備し、水利が乏しい地域での水源となる車両です。単独放水も可能なように、小型動力ポンプを装備しています。

保有車両 (平成30年4月現在)

救助工作車

5台



救助工作車は、火災はもとより、交通事故や水難事故などに出勤して、人命救助をする車両です。救助工作車には、エンジンカッター(切断機)、エアソー(空気鋸)や油圧救助器具などの救助器材を搭載しているほか、車体にはクレーンやウインチ、照明装置などを搭載しています。

指揮調査車

1台



指揮調査車は、高度に進化する消防戦術に対応し、効率的な現場指揮活動を行い、隊員の安全管理・指揮命令の徹底、情報の収集・伝達の一元化を図り、二次災害防止および被害を最小限に食い止めるための活動を支援する車両です。

人員搬送車

1台



人員搬送車は、碧南消防署に配置されている乗車人員26名の車両です。消防音楽隊の演奏を始め、消防局各種行事に多数の職員を搬送するための車両です。

高規格救急自動車

15台



高規格救急自動車は、傷病者を医療機関へ搬送する車両です。高度な救命処置を行うため、車内スペースを広くしているほか、多くの救命処置用資器材を積載しています。

資器材搬送車

5台



資器材搬送車は、災害時に各種の消防用資器材を現場まで搬送する車両です。

救助艇(碧号)

1艘



碧号は、全長8.43m、定員11人を乗船させることができ、巡航最高速度30ノット(約55キロ)で巡航することができる高速救助艇です。衣浦港の碧南臨海部を管轄し、発電所や製造業などの基幹産業地域の水難事故に対応しています。新川港に配備され、水難事故が発生した際は、潜水士を乗船させ迅速に水難海域へ出動します。

服装

防火衣



防火帽

頭や顔面を炎や落下物から守るためのヘルメットです。

防火衣

熱に強く、防水性のある材料で作られ、消防士を炎から守ります。

空気呼吸器

煙や有毒なガスが発生していても、呼吸ができるように、背負ったボンベから空気を吸います。

防火靴

地面に落ちている釘や重たい落下物から足を守るために丈夫に作られています。

救急服



ゴーグル

血液や嘔吐物などが目に入るのを防ぎます。

マスク

血液や嘔吐物などが口に入るのを防ぎます。

聴診器

心臓の音や呼吸の音を聞きます。

感染防止衣

血液や嘔吐物などが皮膚に付着するのを防ぎます。

ベルト

無線機などをつけるようになっていきます。

救急用ベスト

救急資器材を収納できるポケットがたくさんついています。

ニトリルグローブ

血液や嘔吐物などが手に付着するのを防ぎます。

服装

救助服



ゴーグル

ガラスの破片や粉塵などから救助隊員の目を保護します。

ヘッドライト

暗い場所を照らし、救助隊員が行う現場活動を補助します。

携帯無線機

無線を使って、現場の情報をどこからでも送ることができます。

救助ベスト

反射板が取り付けられており、光に反射して隊員の位置を把握することができます。ポケットには色々な道具を収納します。

エルボーパッド

固くて危ない物から救助隊員の肘を守ります。

フルボディハーネス

高い所からロープで降りるときや高い所で作業をするときに救助隊員の命を守ります。

救助用手袋

鋭い刃物などから救助隊員の手を保護します。

ニーパッド

固くて危ない物から救助隊員の膝を守ります。

編み上げ靴

耐久性に優れ、内部に埋め込まれる鉄板が足先を守ります。

潜水服



ヘルメット

軽くて水に浮くように作られています。頭を危険な物から守ります。

マスク

水中を見やすくして、活動が素早くできるようにします。水中ゴーグルと同じ役目です。

水中ライト

水中で使用できるようにできていて、暗い水中を明るく照らします。

ウェットスーツ

体温を維持すること、危険な物から体を守ります。

ゲージ

水深計、残圧計、コンパスがついていて、水深を測ったり、ボンベに残っている空気の量を見たり、方位を確認することができます。

フィン

速く泳ぐことや素早く潜ることができます。

BCジャケット

空気ボンベを固定し、リュックのように背負います。空気ボンベの空気を利用して、安全に浮いたり、沈んだりできます。

レギュレーター

ボンベの空気の圧力を調整して、水中で呼吸ができるようにしたり、BCジャケットに空気を送ったりします。

水中ナイフ

ロープや漁網などが体に絡まった時に切断して脱出します。



御嶽山噴火災害における活動



御嶽山噴火災害における活動



東日本大震災における活動

緊急消防援助隊

市民の生命・身体・財産を守ることを任務とする消防機関には消火・救助活動を実施する精鋭部隊が置かれており、地域住民の「安全・安心」を守っています。しかしながら、大規模災害や特殊な災害が発生したとき被災地の消防機関だけでは対応できないことも想定されます。このような場合には、被災地の要請を受け、緊急消防援助隊が地域を越えた消火・救助活動を実施します。

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設されました。衣浦東部広域連合では東日本大震災や御嶽山噴火災害に緊急消防援助隊として出動しています。

訓練

各関係機関と協力し、大規模災害活動時における地域の実情に応じた技術及び連携活動能力の向上を目的に訓練を実施しています。



緊急消防援助隊合同訓練



緊急消防援助隊合同訓練

消防団

消防団は、消火活動をはじめ、地震や風水害などの自然災害における災害防除活動、住民の避難支援、被災者の救出・救助活動を行い、地域住民の安全・安心の確保のために果たす役割はますます大きくなっています。近年の複雑多様化する災害に対応するため、消防職員と消防団員が相互に連携しながら訓練を行うほか、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図っています。



5市消防団合同操法訓練



消防団救助訓練

災害時以外の活動

水難訓練



水難事故に対応できる潜水士を養成しています。

連携訓練



様々な災害に対応できるよう、関係機関や他の消防本部と連携しています。

救助技術訓練



毎年夏に開催される救助技術大会に向け、過酷な訓練を通じて切磋琢磨し自己鍛錬に励んでいます。

消防音楽隊



火災予防への理解と協力を呼びかけるため演奏活動を行っています。

救命率向上を目指して



救命のバトンを繋ぐため、みなさんと医療機関との密接な関係を築いています。

防火キャンペーン



防火意識を高めてもらうため、各地で防火キャンペーンを実施しています。

トレーニング



いつでも最高のパフォーマンスができるよう日々鍛錬を欠かしません。

クラブ活動



陸上部、サッカー部、サーフィン部など様々なクラブ活動を行っています。

女性職員

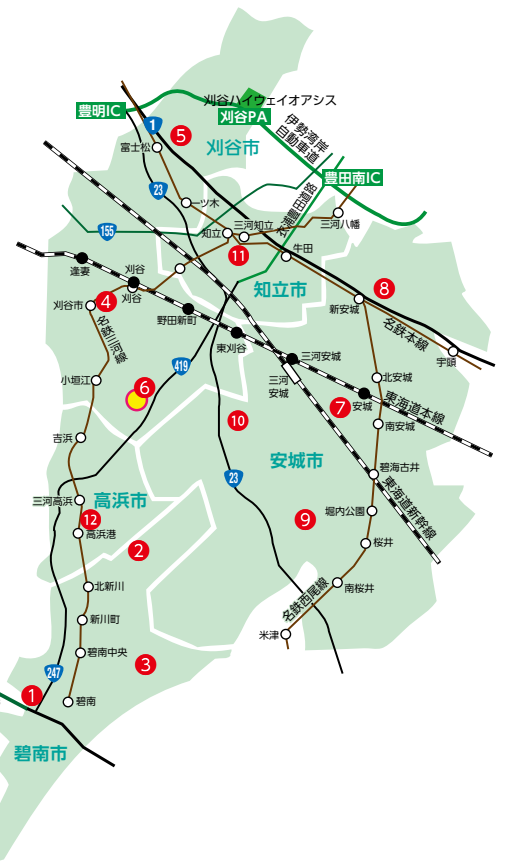


女性職員も様々な部署で活躍しています。

衣浦東部広域連合消防局とは？

衣浦東部広域連合は、平成15年4月に碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市の5市により、総合的な消防力の充実を図り、高度な消防サービスを提供することによって、圏域市民の生命・財産を火災から守るとともに、災害による被害の軽減を目指し設立されました。管轄人口(5市全体の人口)は50万人を超え、愛知県下では名古屋市に次ぐ規模の消防局です。

消防局の職員数は400人を超え、5市管内を12署所(5消防署、6分署、1出張所)の体制で地域の安全・安心を守っています。



施設

① 碧南消防署



② 碧南消防署北分署



③ 碧南消防署東分署



④ 刈谷消防署



⑤ 刈谷消防署北分署



⑥ 刈谷消防署南分署



⑦ 安城消防署



⑧ 安城消防署北分署



⑨ 安城消防署南分署



⑩ 安城消防署西出張所



⑪ 知立消防署



⑫ 高浜消防署



衣浦東部広域連合消防局

〒448-8677 刈谷市小垣江町西高根204番地1
TEL.0566-63-0119 FAX.0566-63-0130

衣浦東部消防局のホームページは
下記URLかQRコードからアクセス!

<http://www.kinutoh.jp>



※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

